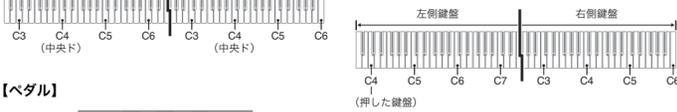


鍵盤を左右に分けて2人で弾く(デュエット)

鍵盤の中央から右側と左側で同じ音域にすることができます。両端のペダルもそれぞれ左側鍵盤用と右側鍵盤用のダンパーペダルになります。

- FUNCTION**ボタンと**GRAND PIANO** 1ボタンを2つ一緒に押したまま、左側鍵盤でC4(中央ド)の高さに設定したいC(ド)の鍵盤を押します。そのまま**FUNCTION**ボタンと**GRAND PIANO** 1ボタンを押し続けて、手順2へ進みます。

例: 左端のC(ド)の鍵盤を押した場合は、以下の音域になります。



最初の設定より1オクターブ高い 最初の設定のまま

- FUNCTION**ボタンと**GRAND PIANO** 1ボタンを2つ一緒に押したまま、右側鍵盤でC4(中央ド)の高さに設定したいC(ド)の鍵盤を押します。C4の音が高鳴って、右側鍵盤の音域が変更されます。

●**メモ**

- 3本のペダルのうち、右側鍵盤用ダンパーペダルのみハーフペダルに対応します。

- 音色を選びます。
- FUNCTION**ボタンを押しながら、デュエットモード鍵盤を押すことに、デュエットモードの設定が以下のようになり切り替わります。

オフ

オン

バン:左側鍵盤の音は左スピーカーからのみ、右側鍵盤の音は右スピーカーからのみ出るように設定されます

ボタンから音色を選ぶ

- GRAND PIANO** 1ボタン、または**GRAND PIANO** 2ボタンを押します。
 - GRAND PIANO** 1ボタンを押すと、「GRAND PIANO 1」の中の「CONCERT」音色が選ばれます。
 - GRAND PIANO** 2ボタンを押すと、「GRAND PIANO 2」の中の「CONCERT」音色が選ばれます。

鍵盤から音色を選ぶ

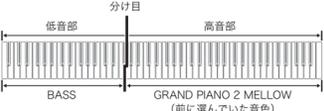
音色名は、本機鍵盤部の上側に記されています。

- FUNCTION**ボタンを押しながら、音色に対応する鍵盤を押します(「設定に使用する鍵盤一覧」の「音色」を参照)。
 - 鍵盤によっては1つの鍵盤に複数の音色が設定されている場合があります。その場合は、**FUNCTION**ボタンを押しながら鍵盤を押すたびに、音色が順に切り替わり、並び順に応じた回数の確認音(ピッ)が鳴り、現在の設定をお知らせします。

例: MODERN/ROCK/JAZZが設定されている場合
確認音1回: MODERN
確認音2回: ROCK
確認音3回: JAZZ

■低音部専用の音色(ベース)について

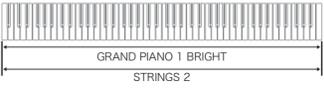
鍵盤セレクトのベース音色(BASS LOWER)を選ぶと、低音部(左側)の鍵盤だけがベース音色に変わります。このとき、高音部(右側)の鍵盤は、それまで選んでいた音色のまま変わりません。



GRAND PIANO 2 MELLOW (前に選んでいた音色)

2つの音色を重ねてみる(レイヤー)

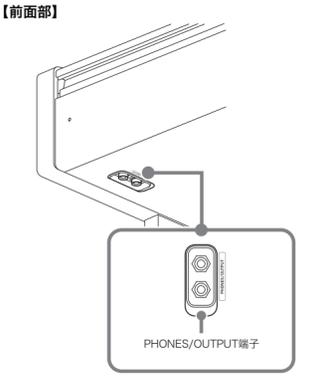
- FUNCTION**ボタンを押しながら、レイヤーの音色選択鍵盤を押して、レイヤーモードをオンにします。
 - 鍵盤を押すたびに、オン/オフが切り替わります。
- FUNCTION**ボタンを押しながら、重ねたい音色に対応している鍵盤を押します。



- 元の1音色の状態に戻すには、再び**FUNCTION**ボタンを押しながら、レイヤーの音色選択鍵盤を押して、レイヤーモードをオフにします。

ヘッドホンを接続する

ヘッドホンをPHONES/OUTPUT端子に接続します。本機のスピーカーからは音が出なくなり、夜間なども周囲に気がなく演奏が楽しめます。なお、耳の保護のために音量を上げすぎないようにご注意ください。



●**メモ**

- ヘッドホンのプラグの形状が端子にあわない場合は、市販の変換プラグをご使用ください。

ヘッドホンモード

ヘッドホンを使用する際に、アコースティックピアノ音色の自然な広がりを再現します。

- FUNCTION**ボタンを押しながら、ヘッドホンモード鍵盤を押します。

鍵盤を押すたびに、オン/オフが切り替わります。

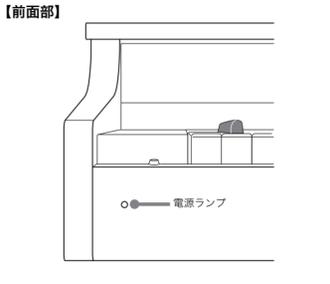
電源を入れる/切る

■電源を入れる

⓪(電源)ボタンを押します。約5秒後に使用できる状態になります。

■電源を切る

電源ランプが消灯するまで、電源ボタンを押し続けます。



●**重要!**

- ⓪(電源)ボタンで電源を切ったあとも、本機は微電流が流れているスタンバイ状態になっています。本機を長時間使用しないとき、あるいは落雷のおそれがあるときは、必ずACアダプターをコンセントから外してください。

■オートパワーオフ

本機を4時間以上操作しないと、自動で電源が切れます。この機能をキャンセルするには、**FUNCTION**ボタンを押しながら⓪(電源)ボタンを押して、本機の電源を入れます。

音量を調整する

VOLUMEつまみでスピーカーやヘッドホンからの音量を調整します。

チューニングを変更する

本機全体の音の高さを工場出荷時のA4=440.0Hzから、0.1Hz単位で変更できます。

- FUNCTION**ボタンを押しながら、A音のチューニングの＋/－鍵盤を押します。
 - 0.1Hz単位で上下します。
 - FUNCTION**ボタンを押しながら、A音のチューニングの＋と－鍵盤を同時に押すことに、以下の値を交互に切り替えます。

確認音1回:440.0Hz
確認音2回:442.0Hz

CELVIANO AP-470

取扱説明書(保証書別添)

この取扱説明書は、お読みになったあとも、保証書とともに、大切に保管してください。

本書について

本書は、全4ページ、2枚構成です。各ページ右上に、ページ番号があります。

操作の前に、本書「取扱説明書 3/4」の「ボタン一覧」、「FUNCTIONボタンの使い方」、「設定に使用する鍵盤一覧」をご覧ください。

- スタンド、譜面立ての組み立て方法は、本書「取扱説明書 4/4」の「スタンドを組み立てる」をご覧ください。**



本書には、基本的な操作方法がまとめられています。より詳しい情報については、「取扱説明書(詳細版)」(下記のホームページまたはQRコードからダウンロードすることができます)を参照してください。
<http://world.casio.com/manual/emi/>

「取扱説明書(詳細版)」には、以下の内容が記載されています。

- 電源を切っても設定状態を保存する(オートレジャーム)と操作のロック
- オーディオやアンプとの接続
- パソコンとの接続
- FUNCTIONボタンを使った詳細な設定
- USBメモリーを使った操作
- MIDIインプリメンテーション・チャート、等

- 別紙の「安全上のご注意」をお読みの上で、正しくお使いください。

△注意

本機を演奏する際、必ず本機のスライド式鍵盤カバーを完全に開けるようにしてください。不完全な開け方で演奏した場合、演奏の際の振動でカバーが閉まり、本機とカバーとの間に指をはさむことがあり、危険です。

アコースティックピアノの音の特徴を調整する

本機のピアノ音色は、アコースティックピアノの響きなどを特徴付ける要素を内蔵しています。それぞれ、4段階で調整できます。

■ハンマーレスポンス

鍵盤を押してから音が鳴るまでの時間のズレを調整します。

設定値

1:速め 2:グランドピアノのイメージ
3:やや遅め 4:遅め

■ストリングレゾナンス

アコースティックピアノ特有の響き方(弦の共鳴)を調整します。演奏する曲やイメージにあった響きを選ぶことができます。

設定値

1:抑えめ 2:やや抑えめ 3:響く 4:よく響く

■リッドシミュレーター

グランドピアノの天板の聞き具合による音の鳴り方の違いを調整します。

設定値

1:天板を閉じている状態
2:天板を少し開けている状態
3:天板が全開の状態
4:天板を取り外している状態

- FUNCTION**ボタンを押しながら、設定したい要素に対応している鍵盤を押します。

●メモ

- 本機の天板を開閉しても、リッドシミュレーターの設定値は変化しません。

内蔵曲を聴く

本機には、ピアノソロ曲「ミュージックライブラリー」が60曲(1～60番)と、ピアノとオーケストラの合奏曲「コンサートプレイ」が10曲(1～10番)内蔵されています。

【デモ曲

- FUNCTION**ボタンを押しながら**METRONOME**ボタンを押します。

コンサートプレイ(リッスン曲)全曲、ミュージックライブラリー全曲の順で連続ループ再生します。

 - 次の曲を聴くには、デモ演奏中に**FUNCTION**ボタンを押しながら**MIDI REC**ボタンを押します。
 - 前の曲を聴くには、デモ演奏中に**FUNCTION**ボタンを押しながら**AUDIO REC**ボタンを押します。
 - デモ演奏を止めるには、▶**■**ボタンを押します。

●メモ

- デモ演奏中に**FUNCTION**ボタンを押しながら**METRONOME**ボタンを押すと、コンサートプレイの曲を再生中は、ミュージックライブラリーの1曲目に移り、ミュージックライブラリーの曲を再生中には、コンサートプレイの1曲目に移ります。
- デモ演奏中は、曲の変更と演奏停止以外の操作はできません。

【ミュージックライブラリー

- FUNCTION**ボタンを押しながら、ミュージックライブラリーの曲選択＋/－鍵盤を押して曲を選びます。ミュージックライブラリーの曲選択の0～9鍵盤で曲番号を直接入力することもできます。
- ▶**■**ボタンを押して、演奏を始めます。
 - 演奏を止めるには、もう一度▶**■**ボタンを押します。

【コンサートプレイ

- FUNCTION**ボタンを押しながらコンサートプレイの曲選択＋/－鍵盤を押して曲を選びます。
- FUNCTION**ボタンを押しながらコンサートプレイ曲の再生/停止鍵盤を押して、演奏を始めます。
 - 演奏を止めるには、もう一度**FUNCTION**ボタンを押しながら、コンサートプレイ曲の再生/停止鍵盤を押します。

●重要!

- コンサートプレイはオーケストラの生演奏を収録しているため、使われている音色は本機で選択できる音色(音色を選ぶ)と異なります。また、演奏者の息づかいや演奏ノイズも含まれています。

内蔵曲を練習する

【ミュージックライブラリー

曲の右手パートまたは左手パートの音を消して、自分で弾く練習をしてみましょう。

- FUNCTION**ボタンを押しながら、ミュージックライブラリーの曲選択(＋/－、0～9)鍵盤を押して、練習する曲を選びます。
- FUNCTION**ボタンを押しながら▶**■**ボタンを押して、各パートのオン/オフを選びます。

オフにしたパートを弾いてみましょう。

両手オン	右手オフ	左手オフ
左手(点灯) 右手(点灯)	右手(消灯)	左手(消灯)

- ボタンを押すたびに、左手、右手のオン/オフの組み合わせが変わります。
- ▶**■**ボタンを押して、曲を再生させます。
 - 途中で曲を止めるには、もう一度▶**■**ボタンを押します。

【コンサートプレイ

3つのステップで合奏の練習ができます。

■ステップ1:リッスン

お手本に、ピアノとオーケストラの合奏を聴いてみましょう。

- FUNCTION**ボタンを押しながらコンサートプレイの曲選択＋/－鍵盤を押して、合奏する曲を選びます。
- FUNCTION**ボタンを押しながら、コンサートプレイのリッスン鍵盤を押します。
- FUNCTION**ボタンを押しながら、コンサートプレイ曲の再生/停止鍵盤を押して、曲を再生させます。
 - 途中で曲を止めるには、もう一度**FUNCTION**ボタンを押しながら、コンサートプレイ曲の再生/停止鍵盤を押します。

■トラックについて

演奏を録音する場所のことをトラックと呼びます。本機の曲にはトラックが2つあり、▶**■**ボタンのL/Rランプでトラックの状態を表します。



ランプ	状態
消灯	オフ
点灯	再生待機、または再生中
点滅	録音待機、または録音中

●**メモ**

- トラック1、トラック2と順番に録音することで、録音後に2つのトラックを1つの曲として、再生することができます。



■鍵盤演奏を録音する

- MIDI RECランプが点滅するまで、MIDI RECボタンを1回または2回押します。

録音待機状態になります。
- 録音するトラックのランプが点滅するまで、**FUNCTION**ボタンを押しながら▶**■**ボタンを1回または2回押します。
- ▶**■**ボタンを押すか演奏をはじめます。

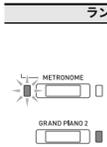
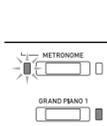
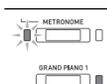
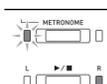
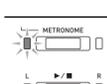
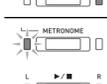
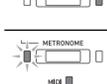
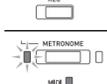
録音が始まります。

鍵盤を押すだけでなく、ペダルを踏むなどの操作でも録音が始まります。

 - 演奏ミスなどで録音をやり直したいときは、録音中に**MIDI REC**ボタンをピッと音が鳴るまで長押ししてください。録音中のデータを破棄して録音待機状態に戻ります。
 - 録音を止めるには、▶**■**ボタンまたはMIDI RECボタンを押します。

●重要!

●本機の故障、修理などによる録音内容の消去により生じた損害、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。

ランプの表示	エラーの種類	原因	解決方法
	No Media	1. 本機のUSBメモリー端子にUSBメモリーが正しくセットされていない。 2. 操作途中でUSBメモリーが抜き差しされた。 3. USBメモリーがプロテクトされている。 4. USBメモリーにウイルス対策ソフトが入っている。	1. USBメモリー端子にUSBメモリーを正しくセットする。 2. 本機の操作中にはUSBメモリーを動かさない。 3. USBメモリーのプロテクトを解除する。 4. ウィルス対策ソフトが入っていないUSBメモリーを使う。
	No File	"MUSICLIB"、"AUDIO"フォルダの中に読み込みや再生ができるファイルがない。	読み込みや再生したいファイル" MUSICLIB"、"AUDIO"フォルダの中に読み込みや再生ができるファイルがない。
	No Data	録音データがないのに、USBメモリーに保存しようとした。	録音してから保存する。
	Read Only	USBメモリーに入っている読み込み専用ファイルと同じ名前で、別のデータを保存しようとしている。	別の名前に変えてから保存する。USBメモリーのファイルから読み込み専用属性をはずして、上書き保存する。別のUSBメモリーを使う。
	Media Full	USBメモリーの空き領域が足りない。	USBメモリーに保存しているファイルを消去して、空き領域を増やす。または別のUSBメモリーを使う。
	File Full	1. USBメモリー内のファイル数が上限になっている。 2. "AUDIO"フォルダ内にTAKE99.WAVファイルが存在する。	1. USBメモリーに保存しているファイルを消去してファイル数を減らす。 2. "AUDIO"フォルダ内のWAVファイルを消去する。
	Wrong Data	1. USBメモリーのデータが壊れている。 2. USBメモリーのデータが本機で操作できない内容になっている。	－
	Format	1. USBメモリーのフォーマットが本機に適合していない。 2. USBメモリーが壊れている。	1. 本機でUSBメモリーをフォーマットする。 2. 別のUSBメモリーを使う。

[左下へ続く]

■ 録音した演奏を再生する

- MIDI RECランプが点灯するまで、MIDI RECボタンを1回または2回押します。再生待機状態になります。
- 再生するトラックのランプが点灯するまで、FUNCTIONボタンを押しながら▶■ボタンを1回または2回押します。
 - 両方のトラックを再生するには、L/R両方のランプを点灯させます。
- ▶■ボタンを押します。再生が始まります。
 - 再生を止めるには、もう一度▶■ボタンを押します。

■ 録音した演奏を再生しながら、他のトラックに録音する

- MIDI RECランプが点灯するまで、MIDI RECボタンを1回または2回押します。再生待機状態になります。
- 再生するトラックのランプが点灯するまで、FUNCTIONボタンを押しながら▶■ボタンを1回または2回押します。
- MIDI RECボタンを押して、MIDI RECランプを点滅させます。録音待機状態になります。
 - 最初から録音をやり直したいときは、MIDI RECボタンをピッと音が鳴るまで長押ししてください。
 - 再生と録音を止めるには、▶■ボタンを押します。
- ▶■ボタンを押すか演奏をはじめます。録音と再生が始まります。
 - 最初から録音をやり直したいときは、MIDI RECボタンをピッと音が鳴るまで長押ししてください。
 - 再生と録音を止めるには、▶■ボタンを押します。

■ 録音した演奏を消去する

-
- ここで消去したトラックの内容は、元に戻すことはできません。
- MIDI RECランプが点滅するまで、MIDI RECボタンを1回または2回押します。
 - 消去するトラックのランプが点滅するまで、FUNCTIONボタンを押しながら▶■ボタンを1回または2回押します。
 - MIDI RECランプが点灯するまで、MIDI RECボタンを押し続けます。消去待機状態になります。
 - FUNCTIONボタンを押しながら、▶■ボタンを押します。選んだトラックの内容が消去されます。
 - 途中で操作を中止するには、MIDI RECランプが消えるまでMIDI RECボタンを1回または2回押します。

ホールシミュレーターをかける

透明感のある端正な響きや、伸びやかで華やかな響きなど、世界的に有名なコンサートホールの、それぞれに異なる音響特性をシミュレートすることができます。

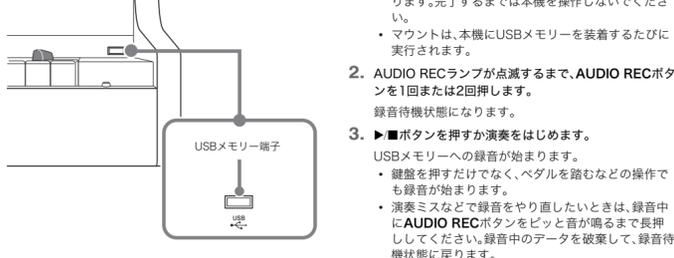
- FUNCTIONボタンを押しながら、選みたいホールシミュレーターに対応している鍵盤を押します。

名称	説明
DUTCH CHURCH	音楽に適した響きをもつアムステルダム教会
STANDARD HALL	一般的なコンサートホール
BERLIN HALL	ベルリンのアーナ形式クラシックコンサートホール
FRENCH CATHEDRAL	パリのゴシック建築大聖堂

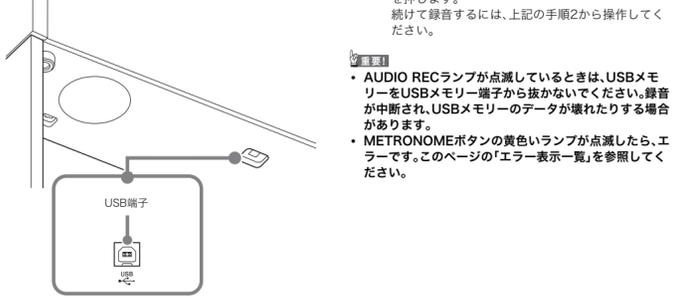
オーディオレコーダーを使う

本機での演奏を、USBメモリーにオーディオファイルの形式で録音したり、録音したものを聴くことができます。本機で演奏した内容が、すべてオーディオデータ (WAVファイル[※]) としてUSBメモリーへ録音されます。
※リニアPCM、16bit、44.1kHz、Stereo

【前面部】



【底面部】



■ 録音できる容量

- 99ファイル (TAKE01.WAV～TAKE99.WAV)
- 1ファイルあたり、最大録音時間約25分まで。

■ 録音される内容

- 本機でのすべての演奏
- パート別に録音できます

■ 録音内容の保持

USBメモリーに録音されるオーディオデータは、録音ごとに上書きはされず、自動的にファイル名を変更して保存されます。

■ 鍵盤演奏を録音する

- USBメモリーを本機のUSBメモリー端子に装着します。
 - USBメモリーを本機に装着すると、本機がUSBメモリーとデータをやり取りする準備(マウント)をおこないません。このあだはL/Rランプが点滅し、一時的に本機のコピー音が聞こえます。
 - マウントが完了するまでに数十秒間かかることがあります。完了するまでは本機を操作しないでください。
 - マウントは、本機にUSBメモリーを装着するたびに実行されます。
- AUDIO RECランプが点滅するまで、AUDIO RECボタンを1回または2回押します。録音待機状態になります。
- ▶■ボタンを押すか演奏をはじめます。USBメモリーへの録音が始まります。
 - 鍵盤を押すだけでなく、ペダルを踏むなどの操作でも録音が始まります。
 - 演奏ミスなどで録音をやり直したいときは、録音中にAUDIO RECボタンをピッと音が鳴るまで長押ししてください。録音中のデータを破棄して、録音待機状態に戻ります。
 - 録音を止めるには▶■またはAUDIO RECボタンを押します。続けて録音するには、上記の手順2から操作してください。

※重要

- AUDIO RECランプが点滅しているときは、USBメモリーをUSBメモリー端子から抜かないでください。録音が中断され、USBメモリーのデータが壊れたりする場合があります。
- METRONOMEボタンの黄色いランプが点滅したら、エラーです。このページの「エラー表示一覧」を参照してください。

■ USBメモリーに録音した演奏を再生する

- AUDIO RECランプが点灯するまで、AUDIO RECボタンを1回または2回押します。再生待機状態になります。
- 再生する曲を選びます。最後に録音した曲を再生する場合は、手順3へ進みます。
 - ひとつ前の曲を選ぶFUNCTIONボタンを押したままミュージックライブラリーの曲選択＋鍵盤を押します。鍵盤を押すことに、ひとつ前の曲を選ぶことができます。
 - ファイル番号順に選ぶFUNCTIONボタンを押したままミュージックライブラリーの曲選択＋鍵盤を押します。鍵盤を押すことに、番号順に曲を選ぶことができます。
 - ファイル番号で選ぶFUNCTIONボタンを押したままミュージックライブラリーの曲選択0～9鍵盤でファイルの番号(1～99)を指定します (TAKE01.WAV、TAKE02.WAV...)。指定した番号のファイルが存在しない場合は、ピーツと音が鳴ります。
- ▶■ボタンを押して曲を再生します。
 - もう一度▶■ボタンを押すと、曲が停止します。

■ USBメモリーに録音したオーディオファイルを消去する

録音した内容をファイル単位で消去します。

※重要

- ここで消去したファイル (録音した内容) は、元に戻すことはできません。

- AUDIO RECランプが点灯するまで、AUDIO RECボタンを1回または2回押します。再生待機状態になります。
 - ひとつ前の曲を選ぶFUNCTIONボタンを押したままミュージックライブラリーの曲選択＋鍵盤を押します。鍵盤を押すことに、ひとつ前の曲を選ぶことができます。
 - ファイル番号順に選ぶFUNCTIONボタンを押したままミュージックライブラリーの曲選択＋鍵盤を押します。鍵盤を押すことに、番号順に曲を選ぶことができます。
 - ファイル番号で選ぶFUNCTIONボタンを押したままミュージックライブラリーの曲選択0～9鍵盤でファイルの番号(1～99)を指定します (TAKE01.WAV、TAKE02.WAV...)。指定した番号のファイルが存在しない場合は、ピーツと音が鳴ります。
- 消去する曲を選びます。最後に録音した曲を消去する場合は、手順3へ進みます。
 - ひとつ前の曲を選ぶFUNCTIONボタンを押したままミュージックライブラリーの曲選択＋鍵盤を押します。鍵盤を押すことに、ひとつ前の曲を選ぶことができます。
 - ファイル番号で選ぶFUNCTIONボタンを押したままミュージックライブラリーの曲選択0～9鍵盤でファイルの番号(1～99)を指定します (TAKE01.WAV、TAKE02.WAV...)。指定した番号のファイルが存在しない場合は、ピーツと音が鳴ります。
- AUDIO RECボタンを押して、AUDIO RECランプを点滅させます。
 - 途中で操作を中止するには、AUDIO RECランプが点滅するまで、AUDIO RECボタンを1回または2回押します。
- AUDIO RECランプが点灯するまで、AUDIO RECボタンを押し続けます。L/R両方のランプが点滅して、消去待機状態になります。
 - 途中で操作を中止するには、AUDIO RECランプが点滅するまで、AUDIO RECボタンを1回または2回押します。
- ▶■ボタンを押すか演奏をはじめます。録音と再生が始まります。
 - 最初から録音をやり直したいときは、MIDI RECボタンをピッと音が鳴るまで長押ししてください。
 - 再生と録音を止めるには、▶■ボタンを押します。

※重要

- 特定のファイルを消去して番号に欠番が出ても、そのままとなります。新たにオーディオレコーダーで録音したときは、欠番しているファイル番号ではなく、最後のファイル番号の次の番号に保存されます。

アプリケーションとリンクして使おう (APP 機能)

本機をスマートフォンやタブレットなどのスマートデバイスと接続し、専用アプリを使うと、スマートデバイスの画面で視覚的にピアノ本体を操作したり、内蔵曲の楽譜表示[※]や曲解説の閲覧ができます。

※コンサートプレイ曲を除く。

専用アプリをダウンロードする

以下のページから専用アプリをダウンロードして、お使いのスマートデバイスにインストールしてください。
http://web.casio.com/app/ja/



ランプの表示	エラーの種類	原因	解決方法
	Media R/W	USBメモリーが壊れている。	別のUSBメモリーを使う。
	Size Over	USBメモリーの曲データのサイズが大きすぎて本機で再生できない。	本機では最大で90キロバイトの曲データまで再生できます。

困ったときは

こんなときは	解決方法
鍵盤を押しても音が出ない。	1. VOLUMEつまみを"MAX"の方に動かす。 2. ヘッドホンまたは変換プラグをPHONES/OUTPUT端子から抜く。 3. ローカルコントロールの設定をオンにする。詳しくは取扱説明書(詳細版)をご覧ください。
ピッチがずれて聴こえる。	1. トランスポーズ設定を"0"にする。または、電源を入れ直す。 2. チューニング設定を440.0Hzにする。または、電源を入れ直す。 3. オクターブシフトの設定を"0"にする。詳しくは取扱説明書(詳細版)をご覧ください。 4. 音律の設定を"00"(平均律)にする。
ペダルを踏んでも効果がかからない。	ペダルユニットのプラグの向きを確認して、本機のペダルコネクタにしっかり差し込む。プラグの向きは、本書「取扱説明書 4/4」 「スタンドを組み立てる」の「コード類を接続する」をご覧ください。
音の鳴り方や効果がおかしい。電源を入れ直しても変わらない。例: 弾き方(タッチ)を変えても音に強弱がつかない。	オートレジェームをオフにして、電源を入れ直す。詳しくは、取扱説明書(詳細版)をご覧ください。
同じ音色で鍵盤の位置によって音質や音量が若干異なる音色がある。	デジタルサンプリングという電子処理 [※] によって発生する音域の境目で、故障ではありません。 ※元になっている楽器音の音域ごとの音質を再現するために、低域・中域・高域など複数の音域ごとに元の楽器音を録音し、ひとつの音色に仕上げ処理。
ボタン操作をすると、鳴っている音が一時的に途切れたり、音質が若干変わったように聴こえる。	レイヤー機能、デュエット機能、内蔵曲の演奏、録音機能などを使用しているときは、複数のパートの音が同時に鳴っています。このようなときにボタンを操作すると、音色固有の内蔵エフェクト設定が自動的に変更されて、パートによっては左記のような現象が発生することがありますが、故障ではありません。
本機のデータや設定などの内容をすべて初期化する。FUNCTIONボタンと＋/－ 鍵盤を押して設定した数値を元に戻す。	FUNCTIONボタンとMIDI RECボタンとGRAND PIANO 2ボタンを押しながら、電源ボタンを押して、本機の電源を入れます。FUNCTIONボタンを押しながら、それぞれの設定の＋と－鍵盤を一緒に押すと、最初の設定(初期値)に戻ります。

製品仕様	
型式	AP-470BK/AP-470BN/AP-470WE
鍵盤	88鍵、ピアノ鍵盤、タッチレスポンス付き
同時発音数	最大256音
音色	22種類 <ul style="list-style-type: none">レイヤー可(ベース音色を除く)
アコースティック シミュレーター	ダンパーレゾナンス (ダンパーノイズのオン/オフ)、ハンマーレスポンス、ストリングレゾナンス、リッドシミュレーター、キーオフシミュレーター、キーオンアクションノイズ、キーオフアクションノイズ
エフェクト	プリリアンス (−3〜0〜3)、ホールシミュレーター (4種)、コーラス (4種)、DSP、ヘッドホンモード、ボリュームシンクイコライザー
メトロノーム	・ 拍子:0 ～ 9 <ul style="list-style-type: none">テンポ範囲: 20～255
デュエット	音域変更可 (−2～2オクターブ)
コンサートプレイ	・ 曲数:10曲 <ul style="list-style-type: none">曲の音量:調節可 パートのオン/オフ:L,R(レッスンモード時のみ) 3モード:リッスン、レッスン、プレイ
ミュージックライブラリー	・ 曲数:60曲、ダウンロード曲:10曲(1曲あたり最大約90KB、10曲で約900KB) [※] <ul style="list-style-type: none">※表記容量は、1KB=1024バイト換算です。 曲の音量:調節可 パートのオン/オフ:L,R
録音機能	MIDIレコーダー <ul style="list-style-type: none">方式:リアルタイム録音、再生 曲数:1曲 録音トラック数:2トラック 容量:合計約5,000音符 録音内容の保持:内蔵フラッシュメモリー オーディオレコーダー <ul style="list-style-type: none">USBメモリーにリアルタイム録音、再生ーリニアPCM、16bit、44.1kHz、StereoのWAV形式 曲数:99ファイル 1ファイルあたり、最大録音時間約25分まで録音可能 オーディオファイルの音量:調節可
ペダル	ダンパー (ハーフペダル可能:連続可変式)、ソステナート、ソフト
その他の機能	・ タッチレスポンス:3種類、オフ <ul style="list-style-type: none">トランスポーズ:2オクターブ(−12～0～+12) チューニング:415.5Hz～440.0Hz～465.9Hz(0.1Hz単位) 音律:平均律+16種類 オクターブシフト:4オクターブ(−2～0～+2) 操作のロック
MIDI	16chマルチチャンネル受信
USBメモリー	・ 使用可能な容量:32GB以下を推奨 <ul style="list-style-type: none">機能:SMF再生、録音曲の保存、曲データの読み込み、フォーマット、オーディオデータの再生、保存
入出力端子	・ PHONES/OUTPUT端子:ステレオ標準ジャック×2 <ul style="list-style-type: none">電源端子:DC24V USB端子:タイプB USBメモリー端子:タイプA ペダルコネクタ
スピーカー	φ12cm×2+φ4cm×2 (出力20W+20W)
電源	ACアダプター AD-E24250LW使用 <ul style="list-style-type: none">オートパワーオフ機能:約4時間、キャンセル可能
消費電力	24V ≡: 20W
サイズ	本体+スタンド：幅141.7×奥行42.7×高さ86.1cm
質量	本体+スタンド：約43.4kg

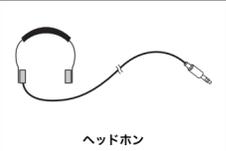
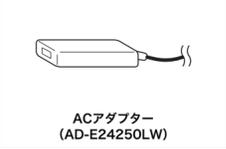
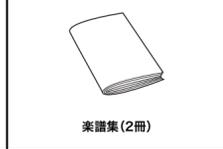
・ 改良のため、仕様およびデザインの一部を、予告なく変更することがあります。

付属品・別売品について

付属品や別売品は、必ず本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

付属品一覧

- スタンド、ペダルユニットについては、本書「取扱説明書 4/4」 「スタンドを組み立てる」をご覧ください。

		
ヘッドホン	譜面立て	イス
		
ACアダプター (AD-E24250LW)	電源コード	楽譜集 (2冊)

リーフ類

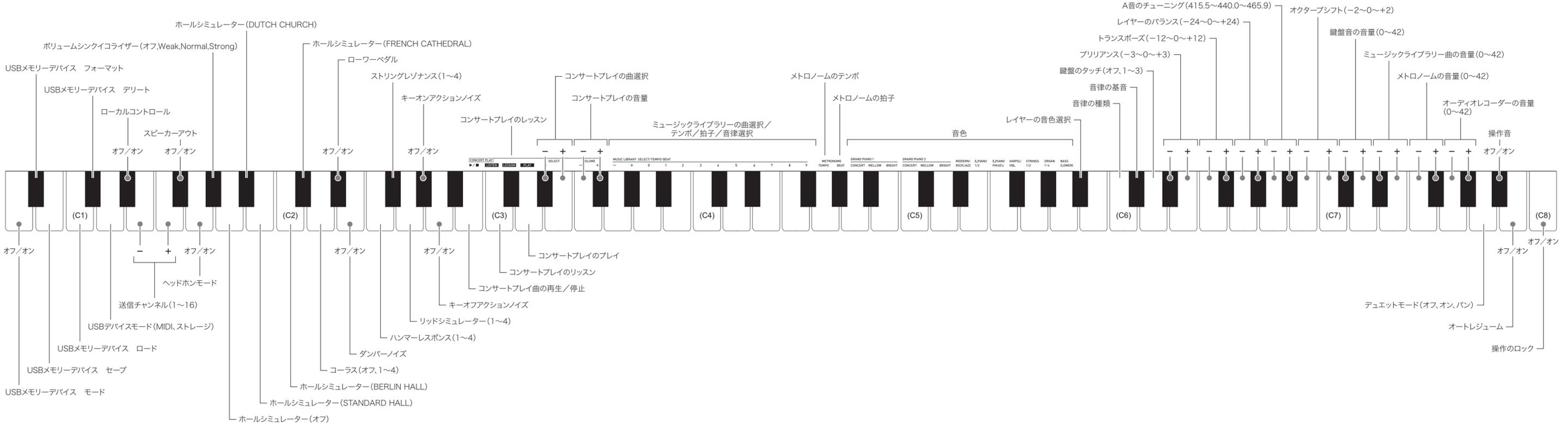
- 取扱説明書(本書)
- カシオ電子楽器保証書
- 安全上のご注意
- アフターサービス窓口について
- その他

・ 欠品、破損、紛失等の場合は、ご購入された販売店にお問い合わせください。(ACアダプターは別売品で購入可能)
・ 付属品のデザインと内容は、予告なく変更されることがあります。

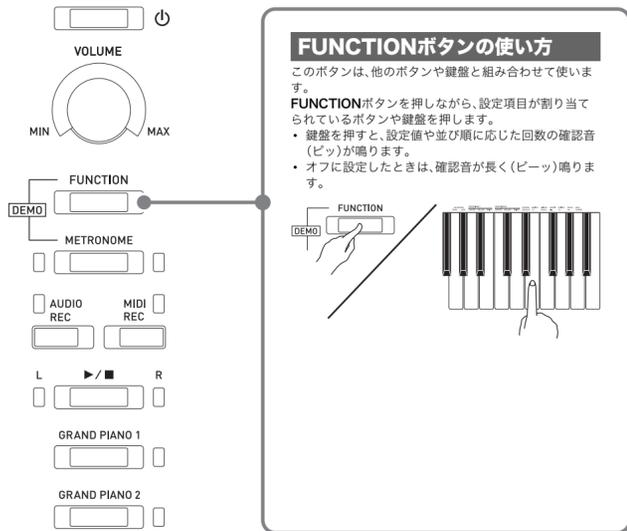
別売品のご案内

商品名	品番	
ヘッドホン	CP-16	
イス	CB-5 CB-7 CB-30	<ul style="list-style-type: none">カシオ電子楽器取扱店で購入可能。 別売品については、店舗の製品カタログでより詳しい情報がご覧いただけます。 http://casio.jp/emi/catalogue/

設定に使用する鍵盤一覧



ボタン一覧



音色リスト

音色名	プログラム チェンジ	バンク セレクト MSB
GRAND PIANO 1	CONCERT	0
	MELLOW	1
	BRIGHT	2
GRAND PIANO 2	CONCERT	3
	MELLOW	4
	BRIGHT	5
MODERN PIANO		6
ROCK PIANO		7
JAZZ PIANO		8
ELEC.PIANO 1		9
ELEC.PIANO 2		10
FM E.PIANO		11
60'S E.PIANO		12
HARPSICHORD		13
VIBRAPHONE		14
STRINGS 1		15
STRINGS 2		16
ORGAN 1 (PIPE ORGAN)		17
ORGAN 2 (JAZZ ORGAN)		18
ORGAN 3 (ELEC.ORGAN 1)		19
ORGAN 4 (ELEC.ORGAN 2)		20
BASS (LOWER)		21

ミュージックライブラリーリスト

選択 NO.	曲名
1	ノクターン 作品9の2
2	幻想即興曲 作品66
3	エチュード 作品10の3 <別れの曲>
4	エチュード 作品10の5 <黒鍵>
5	エチュード 作品10の12 <革命>
6	エチュード 作品25の9 <蝶々>
7	プレリュード 作品28の7
8	ワルツ 作品64の1 <小犬のワルツ>
9	ワルツ 作品64の2
10	楽興の時 第3番
11	即興曲 作品90の2
12	軍隊行進曲 第1番 (連弾)
13	春の歌「無言歌 第5集」より
14	楽しい農夫「ユークント・アルバム」より
15	見知らぬ国と人々について「子供の情景」より
16	トロイメライ「子供の情景」より
17	タンブラン
18	メヌエット BWV An h. 114 「アンナ・マグダレーナ・バッハのクラヴィエーア小曲集」より
19	インヴェンション 第1番 BWV 772
20	インヴェンション 第8番 BWV 779
21	インヴェンション 第13番 BWV 784
22	プレリュード 第1番 BWV 846 「平均律クラヴィエーア曲集 第1巻」より

選択NO. 曲名

23	かっこう
24	ガボット
25	ソナチネ 作品36の1 第1楽章
26	ソナチネ 作品20の1 第1楽章
27	ソナタ K.545 第1楽章
28	ソナタ K.331 第3楽章 <トルコ行進曲>
29	ロンド K.485
30	エリーゼのために
31	トルコ行進曲
32	ソナタ 作品13 <悲愴> 第1楽章
33	ソナタ 作品13 <悲愴> 第2楽章
34	ソナタ 作品13 <悲愴> 第3楽章
35	ソナタ 作品27の2 <月光> 第1楽章
36	ラプソディ 第2番
37	ワルツ 作品39の15 (連弾)
38	愛の夢 第3番
39	花の歌
40	乙女の祈り
41	クシコス・ポスト
42	ユームレスク 作品101の7
43	メロディー「叙情小曲集 第2集」より
44	シリエンヌ 作品78
45	子守唄「ドリー組曲」より (連弾)
46	アラベスク 第1番
47	亜麻色の髪乙女「前奏曲集」より
48	バスビエ「ベルガマスク組曲」より
49	ジムノペディ 第1番
50	ジュ・トゥ・ヴ
51	愛の挨拶
52	エンターテイナー
53	メープル・リーフ・ラグ
54	アラベスク「25の練習曲 作品100」より
55	スティリアンヌ「25の練習曲 作品100」より
56	アヴェ・マリア「25の練習曲 作品100」より
57	解途「25の練習曲 作品100」より
58	貴婦人の乗馬「25の練習曲 作品100」より
59	第13番「30番練習曲 作品849」より
60	第26番「30番練習曲 作品849」より

コンサートプレイリスト

選択 NO.	曲名
1	ジュ・トゥ・ヴ
2	モルダウ
3	カノン
4	展覧会の絵「プロムナード」
5	ピアノコンチェルトNo.20 K.466 第2楽章
6	だったん人の踊り
7	ピアノソナタ K.331 第1楽章
8	ヴァイオリン協奏曲 第1楽章
9	主よ、人の望みの喜びよ
10	ハ調のメロディー

ご使用上の注意

「安全上のご注意」と併せてお読みください。

■設置上のご注意

- 本機を次のような場所に設置しないでください。
 - ・直射日光のあたる場所、温度の高い場所。
 - ・極度に温度の低い場所。
 - ・ラジオや、テレビ、ビデオ、チューナーに近い場所(これらを近くに置いた場合、本機には特に障害はありませんが、近くに置いたラジオやテレビの側に雑音や映像の乱れが起こることがあります)。

■本機のお手入れについて

- お手入れにベンジン、アルコール、シンナーなどの化学薬品は使わないでください。
- 鍵盤などのお手入れは柔らかな布を薄い中性洗剤液に浸し、固く絞ってお拭きください。

■付属品・別売品

付属品や別売品は、本機指定のものをご使用ください。指定以外のものを使用すると、火災・感電・けがの原因となることがあります。

■ウエルドライン

外観にスジのように見える箇所がありますが、これは、樹脂成形上の「ウエルドライン」と呼ばれるものであり、ヒビやキズではありません。ご使用にはまったく支障ありません。

■音のエチケット

楽しい音楽も時と場合によっては気になるものです。特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。周囲に迷惑のからない音量でお楽しみください。窓を閉めたり、ヘッドホンを使用するののひとつの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

保証・アフターサービスについて

保証書はよくお読みください

保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

保証期間は保証書に記載されています

修理を依頼されるときは

まず、もう一度、取扱説明書に従って正しく操作していただきます。直らないときは次の処置をしてください。

●保証期間中は

- 保証書の規定に従って取扱説明書等に記載の「修理お申込み先」またはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。
- 保証書に「持込修理」と記載されているものは、製品に保証書を添えてご持参またはご送付ください。
- 保証書に「出張修理」と記載されているものは、取扱説明書等に記載の「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店までご連絡ください。

●保証期間が過ぎているときは

取扱説明書等に記載の「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店までご連絡ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

当商品は「出張修理」「持込修理」のいずれも受け付けておりません。修理をお急ぎの場合には、事前に「修理に関するお問合せ先」にご相談ください。お客様のご希望に沿った修理方法をご案内させていただきます。

あらかじめご了承ください

- 「修理のとき一部代替部品を使わせていただくこと」や「修理が困難な場合には、修理せず同等品と交換させていただきます」ことがあります。また、特別注文された製品の修理では、ケースなどをカシオ純正部品と交換させていただくことがあります。
- 修理のとき、交換した部品を再生、再利用する場合があります。修理受付時に特段のお申し出がない限り、交換した部品は弊社にて引き取らせていただきます。
- 録音機能などのデータ記憶機能付きのモデルでは、修理のとき、故障原因の解析のため、データを確認させていただくことがあります。また、お客様のデータが消える場合がありますので、必要なデータは修理に出す前にお客様にてバックアップをお願いいたします。
- 日本国内向けの製品は海外での修理受付ができません。修理品は日本まで移動の上、日本国内の「修理お申込み先」にご依頼ください。

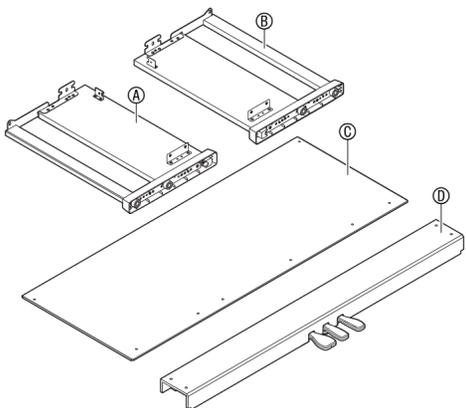
アフターサービスなどについておわかりにならないときは

取扱説明書等に記載の「修理に関するお問合せ先」またはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

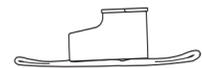
スタンドを組み立てる

- 最初に以下の部品がそろっていることをご確認ください。
- 組み立て用の工具は付属しておりません。あらかじめ大きめのプラス(+)ドライバーをご用意ください。

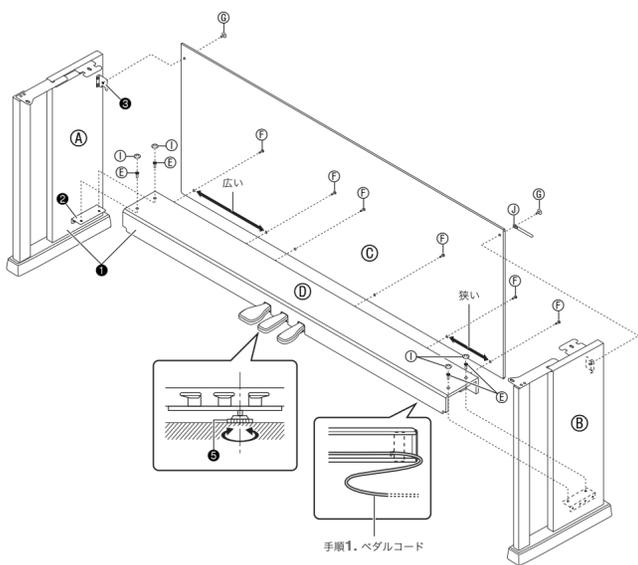
- 【重要】**
- 組み立てが終わるまで、本体の鍵盤カバーについているテープをはがさないようにしてください。組み立ての途中でカバーが開閉すると指などはさむことがあり、危険です。
 - 付属部品以外のネジを使用しないでください。スタンドや楽器本体が破損する恐れがあります。
 - ネジ類はビニール袋にまとめて、緩衝材内にあります。詳しくは、本体の包装に貼付けの「再梱包イラスト図」をご覧ください。
 - ネジの紛失・破損時は、「修理に関するお問合せ先」に関わらせてください。



- △注意**
- 組み立てでは、必ず2人以上で平らな場所で行ってください。
 - 組み立ての際は、手などをささないようにご注意ください。
 - 脚ゴムが床に直接触れないように、フェルトなどの布を敷いてください。脚ゴムが直接フローリングなどの床材に触れると、床材によっては床の変色や傷付き等の原因となります。
 - ピアノ本体を床に置くときは、本体底面に床に直接触れないように、柔らかなもの(毛布、座布団など)の上に置いてください。



部品	数量
E	4
F	6
G	2
H	4
I	4
J	1
K	1
L	1



1. 横木⑩を側板④、⑤に取り付けます。取り付けには、ネジ⑥を4本使用します。
 - ⑩の部分を取り付けるときは、横木⑩の溝へ側板に取り付けた金具②をはめ込みます。奥までしっかりはめ込まれていないと、金具②とネジ⑥が正しくかみあわず、ネジ山がつぶれることがあります。
 - 取り付けしたネジ4箇所をネジキャップ①を装着します。
 - 横木⑩の中から、ペダルコードを引き出します。
2. 背板③の左右上端を、側板④、⑤の金具③に取り付けます。取り付けには、ネジ⑥を2本使用します。

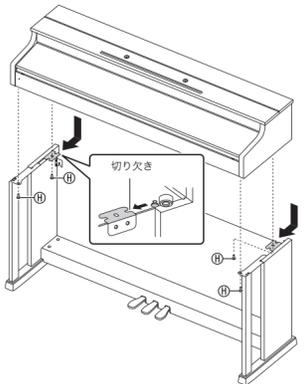
- 【重要】**
- 背板③は取り付ける向きが決まっているので、以下の通り、方向に注意してください。
 - 背板③を取り付けるときは、背板の下部にあるネジ穴の間隔が広い方を側板④側、狭いほうを側板⑤側にしてください。

3. 背板③の下部分をネジ⑦を6本使って取り付けます。

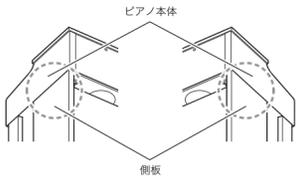
4. 高さ調節ネジ⑧で、ペダルを踏み込んだ時にスタンドの横木⑩が沈まないように、ネジ⑧の高さを調節してください。

- 【重要】**
- 高さ調節ネジ⑧を調節せずにペダル操作を行うと、横木⑩がこわれることがあります。高さ調節ネジ⑧は必ず調節してください。

5. ピアノ本体をスタンドに載せます。
 - このとき、ピアノ本体底面のネジが、スタンドの金具の切り欠きにはまり込むように、なるべくピアノ本体をスタンドの後側から沿うようにします。



- ピアノ本体をスタンドに載せたとき、側板との段差が左右で均等になるように位置を調整してください。

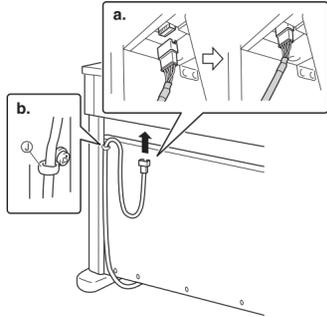


6. ネジ⑨を4本使って、ピアノ本体をスタンドにしっかりと固定します。

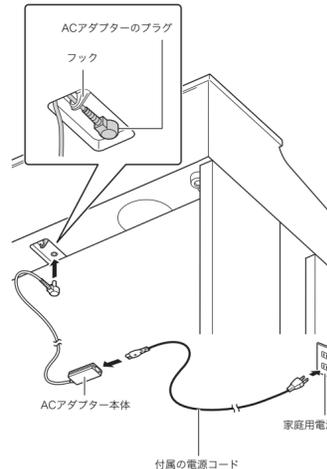
- 【重要】**
- ピアノ本体落下の危険を避けるため、必ずネジで固定してください。

コード類を接続する

1. ペダルユニットのプラグを、下図と同じ向きにして、ピアノ本体底面にあるペダルコネクタに差し込みます。
 - a. 根元までしっかりと差し込んでください。
 - b. ペダルコードを側板⑧に、クリップ④で固定します。

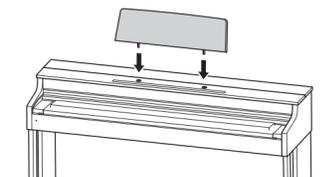


2. 本機の電源端子(DC24V)に付属のACアダプターのプラグを押し、ACアダプター本体と付属の電源コードを接続して、ご家庭の100V電源と接続します。
 - ACアダプターのコードは、電源端子の横にあるフックにひっかけて固定してください。



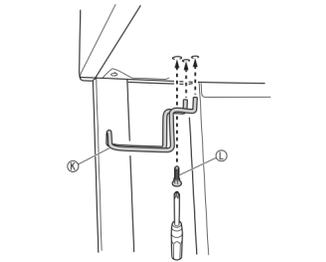
譜面立てを立てる

1. 本体の上面にある2つの穴に、譜面立ての脚を差し込みます。



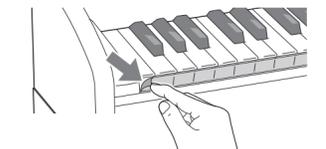
ヘッドホンフックを取り付ける

1. 本体底面の2つの穴に、ヘッドホンフック⑧を差し込みます。
2. ネジ①でヘッドホンフックを本体にしっかりと固定します。



鍵盤に付いている保護テープをはがす

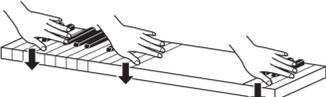
運搬の際に鍵盤を保護するため、鍵盤の手前部分に保護テープが付いています。本機をご使用になるときは、保護テープをはがしてください。



- 図のように、保護テープを手前にゆっくりはがしてください。



- 保護テープをはがしたあと、鍵盤が浮いてしまった場合は鍵盤を上から軽く押し込みます。

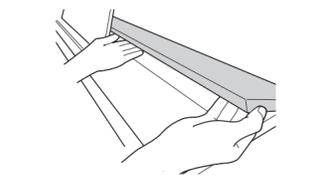


ピアノ/天板を開ける/閉める

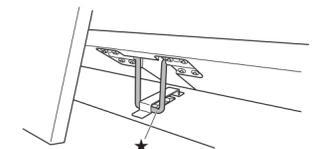
- 【重要】**
- 天板の開け閉めは、必ず両手で行い、指をはさまないようにご注意ください。
 - 天板を無理に後ろ方向へ開けないでください。破損の原因になります。
 - ピアノの右側に立って開閉を行ってください。

■開けるとき

1. 図のように、天板を持ち上げます。

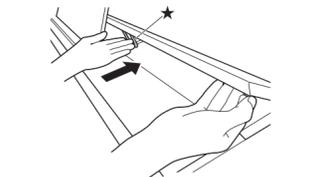


- 天板の内側に天板を支える金具(図の★部分)があるので、金具が立ち上がっていることを確認してください。



■閉めるとき

1. 天板を軽く上に持ち上げます。
2. 図のように天板を支える金具(★)を指で後ろに押ししながら、ゆっくりと天板をおろします。



■JIS C 61000-3-2適合品
本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

CEマーキングは、ヨーロッパ地域の基準適合マークです。

Manufacturer:
CASIO COMPUTER CO., LTD.
6-2, Hon-machi 1-chome, Shibuya-ku, Tokyo 151-8543, Japan

Responsible within the European Union:
Casio Europe GmbH
Casio-Platz 1, 22848 Norderstedt, Germany
www.casio-europe.com

本書に記載されている社名および商品名は、それぞれ各社の登録商標および商標です。

付属(本機指定)のACアダプターについて

- 断線防止のため、下記にご注意ください。
 - コードを強く引っ張らない
 - コードを繰り返し引っ張らない
 - コードの根元部分を折り曲げない(下図)
 - 楽器本体を移動させるときは必ずACアダプターを家庭用コンセントから外す
 - コードを下図のようにACアダプター本体に巻き付けたい



- 本ACアダプターは、使用する機器の近くにあるコンセントに差し込んで使用してください。不具合が生じたときには、コンセントから直ちに切り外せるようにしてください。
- 本ACアダプターは、屋内専用です。水滴のかかる場所には置かないでください。また、水の入った花瓶などを本ACアダプターの上にのせないでください。
- 本ACアダプターは、湿気のないところで保管してください。
- 本ACアダプターは、広々とした換気の良いところでお使いください。
- 本ACアダプターを、新聞紙やテールクロス、カーテンなどで覆わないようにしてください。
- 使用する機器を長い間使用しないときには、本ACアダプターをコンセントから外してください。
- 本ACアダプターは、修理することができません。
- 本ACアダプターの使用環境: 温度0~40°C
湿度10%~90%RH

• 出力形式: ◆ ◆ ◆

• 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万一ご不明な点や誤りなど、お気付きの点がございましたらご連絡ください。

• 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また、個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。

• 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社で一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

• 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。